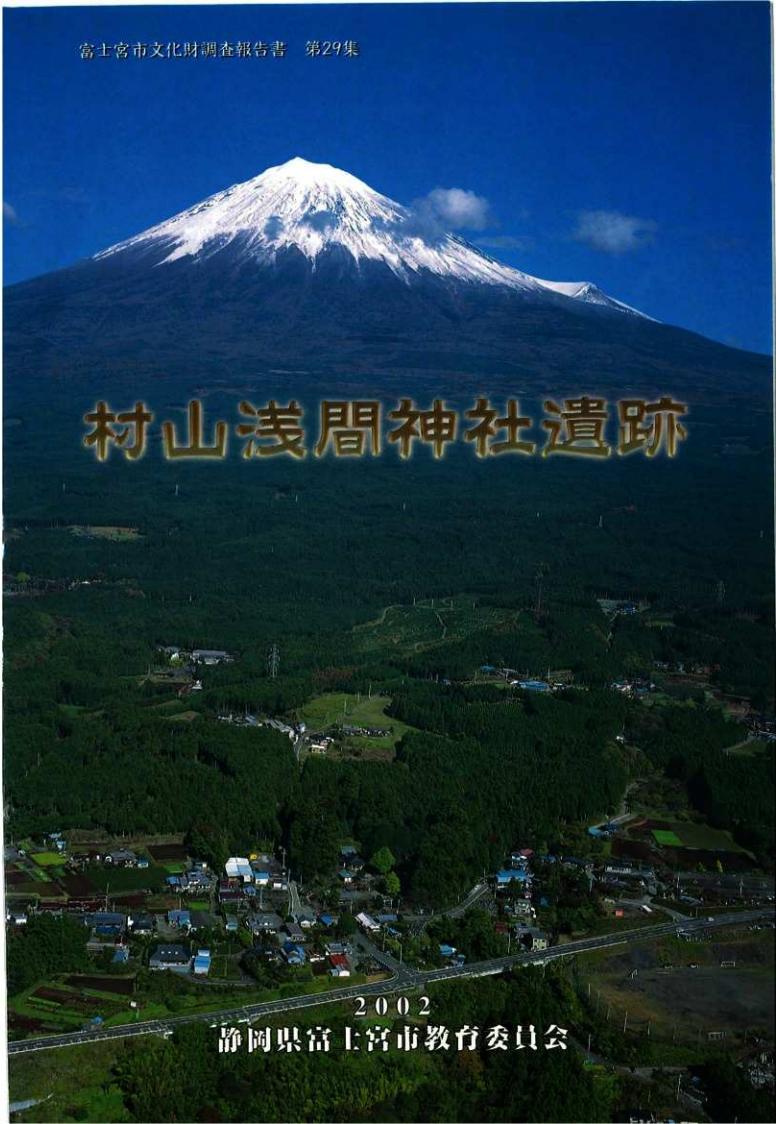
富士宮市文化財調査報告書　第29集



村山浅間神社遺跡

2002
静岡県富士宮市教育委員会

例　　言

1　本書は、静岡県富士宮市村山字水神1151番他に所在する、「村山浅間神社遺跡」の遺跡範囲確認調査報告書である。この調査は、富士宮市教育委員会が計画する、村山浅間神社遺跡の総合学術調査事業の一環で、埋蔵文化財の分野を担うものである。

2　村山浅間神社遺跡の範囲確認調査は、平成13年度に遺跡の基礎範囲確認（期間：平成13年7月3日～8月17日）と、境内地の地形測量、空中写真撮影を実施したのち、平成14年度に市町村緊急地域雇用創出特別対策事業補助金を受けて、富士宮市が㈱東日に委嘱して、平成14年6月10日～10月4日に現地調査を実施したものである。

調査は富士宮市教育委員会文化課学芸員渡井英誉、嘱託員佐野恵里の指導下に、以下の体制で実施した。

主任調査員　㈱東日文化財調査室　武田　英俊
調査補助員　阿部　稔男　佐藤　法夫　佐野　未芳　田中　稔
調査作業員　川島ひとみ　渡辺　成子

なお、本書は平成13年度確認調査資料と、神社周辺分布調査（平成14年3月25～29日、平成14年6月10～17日実施）をふまえた報告を行っている。

3　本書の執筆は、富士宮市教育委員会文化課嘱託員佐野恵里と、株式会社東日文化財調査室調査員武田英俊が行った。文責は末尾に示した。調査に関する整理は、㈱東日調査員武田、整理作業員川島、渡辺と、富士宮市教育委員会文化課渡井、佐野が行い、編集・発行は富士宮市教育委員会が行った。

4　調査に関する遺物・図面・写真などは、全て、富士宮市教育委員会で保管している。

凡　　例

1　第5～6、8～10、13～15、18～19図の凡例は以下のとおりである。

○…土師器　◎…緑釉陶器・灰釉陶器
●…カワラケ　▲…陶磁器
△…擂鉢　◇…瓦
■…写経石　★…銭貨
□…礫
…遺構覆土黒褐色土　○…遺構覆土黒色土
…撹乱

2　調査区名はトレンチで統一した。

目　次

はじめに …… 1
1　村山浅間神社の位置 …… 2
2　調査のあらまし …… 4
3　平成13年度の調査 …… 6
4　平成14年度の調査 …… 8
おわりに …… 18

挿図目次

第１図　村山浅間神社位置図 …… 2
第２図　調査区設定図 …… 5
第３図　上段全体図 …… 6
第４図　写経石出土位置図 …… 7
第５図　１区TR１・２平面図・断面図 … 8
第６図　１区TR３・４・５
　　平面図・断面図 …… 9
第７図　１区出土遺物 …… 10
第８図　２区N15－ｄ平面図・断面図 …… 11
第９図　２区M15－ｂ平面図・断面図 …… 11
第10図　２区K18－ａ平面図・断面図 …… 11
第11図　２区出土遺物 …… 12
第12図　３区地形測量図 …… 12
第13図　３区M６－ｄ平面図・断面図 …… 13
第14図　３区L５－ｄ平面図・断面図 …… 13
第15図　３区M８－ｂ平面図・断面図 …… 14
第16図　３区・４区出土遺物 …… 15
第17図　４区測量図 …… 15
第18図　４区R11－ｂ平面図・断面図 …… 16
第19図　４区Q13－ｂ平面図・断面図 …… 17
第20図　緑釉陶器素地（稜碗）復元図
　　（第11図11）…… 18

挿表目次

第１表　土器・陶器観察表 …… 19
第２表　銭貨観察表 …… 19

写真目次

表紙写真　村山浅間神社と富士山
写真１　絹本著色富士曼荼羅図
　　（国指定重要文化財・富士山本宮浅間大社蔵）
写真２　村山浅間神社社殿 …… 1
写真３　大日堂 …… 1
写真４　村山からの眺め …… 3
写真５　富士山表口南面路次社堂室
　　有来之次第絵図（一部）…… 4
　　（村山浅間神社蔵）
写真６　建物跡 …… 6
写真７　上段集石 …… 6
写真８　写経石 …… 7
写真９　上段，下段調査風景 …… 7
写真10　１区調査風景(1) …… 8
写真11　１区調査風景(2) …… 9
写真12　カワラケ出土状況（第７図３）…… 9
写真13　２区調査風景 …… 10
写真14　３区調査風景 …… 13
写真15　４区調査風景 …… 16

参考文献・指導・協力者一覧・
　　裏表紙写真解説 …… 20
報告書抄録 …… 21
裏表紙写真　富士山表口真面之図
　　（村山浅間神社蔵）

写真１　絹本著色富士曼荼羅図（国指定重要文化財）
縦180.0cm×横117.5cm　室町時代末　富士山本宮浅間大社蔵

中央付近に村山浅間神社が描かれる。その下、赤い鳥居のある堂社は富士山本宮浅間大社である。さらにその下には興津清見寺、三保半島(共に清水市)までが描かれている。村山浅間神社の上を見ると、いくつか堂社が描かれ、登山道沿いの様子が窺い知ることができる。壺印などから狩野元信(1476－1559)作と推測されている。

はじめに

わが町富士宮の富士山信仰を語るとき、富士山本宮浅間大社の存在については言うまでもありませんが、その他に大きくふたつの歴史が知られています。ひとつは、江戸時代に江戸を中心に栄えた富士講であり、その聖地として人穴の存在が知られます。そして、もう一つの大きな流れは村山を中心とした山岳信仰であります。

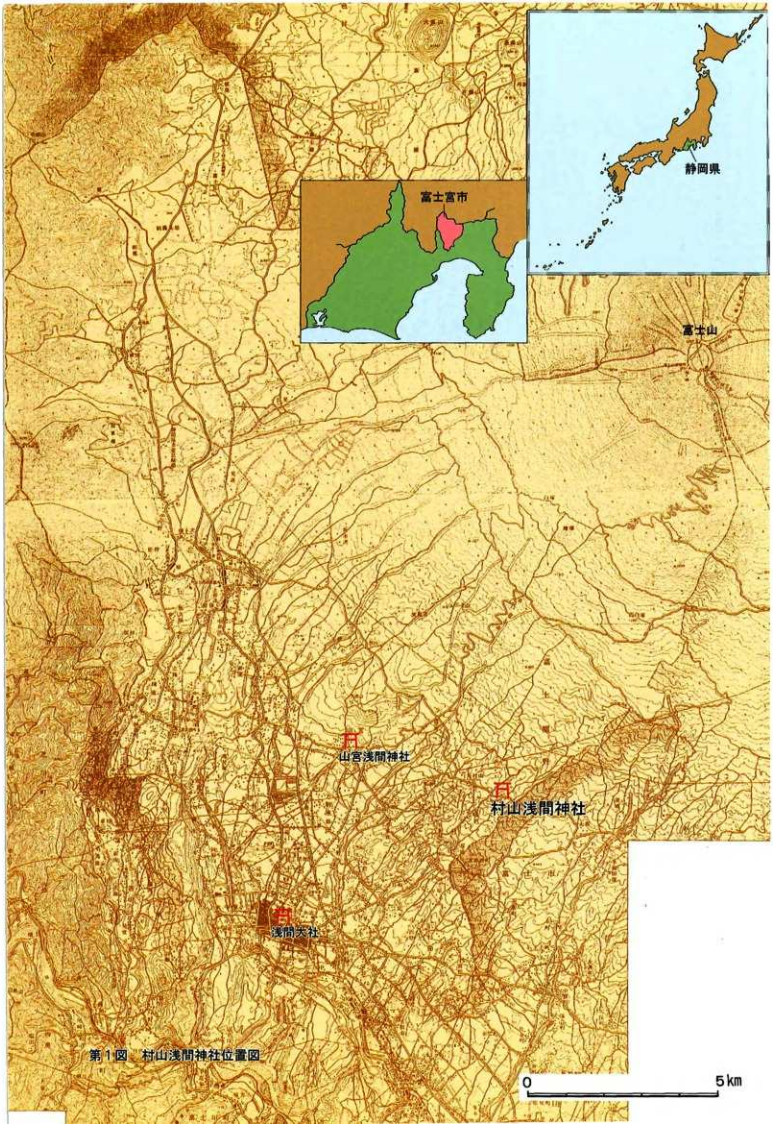
平安時代末、末代上人が開いたとされるこの信仰は村山の地に山伏修験として定着し、やがては庶民が山伏たちに代行登山してもらうことで隆盛を見ていました。これらの拠点として村山には末代の建立とされる興法寺や、江戸時代に村山三坊と言われた辻坊・池西坊・大鏡坊を中心に多くの坊がありましたが、現在はありません。その要因の一つに明治初年の神仏分離令による信仰意識の変化もありますが、新道の開鑿などによって登山の形態が観光化されて、村山が必要とされなくなったことにもよるでしょう。そこで今、忘れ去られようとしている村山の歴史を後世に伝えようと、氏子をはじめとする村山の人々が、旧登山道の整備、開閉山式等伝統行事の復活など、地域の活性化に励まれておりますことは敬服の限りであります。

このような「むらおこし」の活動を支えるためにも、村山の歴史を明らかにしておくことは私たちの責務と考えます。そしてそれが我が国の山岳信仰の解明の一端につながることは確かでありましょう。この遺跡範囲確認調査が、平成14年度より開始された村山浅間神社の総合学術調査の一助となることを期待します。

（文化課）

写真２　村山浅間神社社殿

写真３　大日堂



第１図　村山浅間神社位置図

Ⅰ　村山浅間神社の位置

村山浅間神社は、富士山の南麓、標高約500m程のなだらかな丘陵上にあります（第１図）。富士山の溶岩流の先端に当たるため、一帯は台状に高くなっています。その東端に村山浅間神社はあり、村山の集落はその西や南に広がります。村山に暮らす人々は氏子として、今も村山浅間神社を支えています。

富士山には登山道がいくつかあります。富士登山の歴史の中で、つくられる道、廃れていく道がありました。その中でも村山浅間神社を通る村山口は、最も重要な登山道だったようです。現在の表口登山道は村山口より西にあり、新５合目まで２車線の道路です。富士山スカイラインと呼ばれ、新しく昭和45年に開通しました。

かつて、登山が今日のようにレジャーではなかった時代がありました。富士登山は宗教的修行の一つとされました。道者は村山浅間神社で旅の垢離をとり、富士山中の神域へと入る修行の準備をしました。村山浅間神社は神域と俗域との境に位置するといわれます。

境内地は杉林に囲まれています。中には樹齢数百年を超えるものもあります。村山浅間神社境内から富士山をみると、山容はやや東よりになります。境内には、村山浅間神社拝殿・本殿、大日堂、護摩壇が西から並びます。それらの一段上には高根総鎮守（地元では氏神社とも呼ばれます）が鎮座し、一段下には水垢離場があります。今はほとんど水を湛えていませんが、数十年程前には境内の東にある水源地から引いた水が、溢れるほどでした。また、宝暦２年（1752）の年号のある宝篋印塔など、石造物が点在しています。これらの様子は古文書に描かれていますが、現在の建物の位置関係通りではありません。今はない建物や施設もあるようです。また、近年新しく作られた施設もあります。

村山から見下ろすと、南は遮るものが全くありません。晴れた日には西方に伊豆半島、南方に駿河湾、東方に富士川を、はっきり見ることができます。また、現在でも村山は富士山南麓の集落の北限です。また南や西方の集落からも離れています。このような場所に、村山浅間神社はあります。

写真４　村山からの眺め

2 調査のあらまし

村山浅間神社にのこされた古文書等によれば、下の写真（写真５）にあるように、現在ある建物以外にも、村山浅間神社にはかつて様々な建物があったようです。発掘調査では、これらを確認することを目的に、調査区を設定しました（第２図）。

村山浅間神社は先述のように、富士山の溶岩流上にあります。その丘陵の一つに平坦面を造成し、堂社を建てています。

平成13年度発掘調査では、境内東の平坦面を調査対象地にしました。ここは「大棟梁権現」と呼ばれる社の推定地です。下の写真（写真５）では「富士大権現」とされています。現況は比高差が６ｍある平坦面で下段と上段の２面あります。下段は大日堂の東で、護摩壇がありますが、上段は笹が生い茂り、杉が植林されていました。

平成14年度の調査では村山浅間神社社殿と大日堂裏の平坦面を調査対象地にしました。ここは杉とヒノキの林ですが、植林されない場所が何箇所かあります。これらのうちいくつかは、写真５の絵図に描かれる「行者堂」「東照大権現」や、名前のない小祠が建つ場所に当たるかもしれません。

調査区では高根総鎮守を中心として、境内地の林を４つの区画に分けました。各調査区にトレンチを設定し確認調査を行ないました。

１区は高根総鎮守の西側部分の丘陵部平坦面、２区は高根総鎮守の東側部分の丘陵部平坦面、３区は１区南側の斜面を下ったところに位置する平坦面、４区は高根総鎮守の北側に位置する窪地です。丘陵上にあります。窪地は西から東へゆるく傾斜しながら、北からの狭く深い谷に接します。接するところは比高差５ｍの崖になっています。元禄12（1699）年の『境内分配帳』の絵図には、この窪地と考えられる所に「なかぼり」と記されています。この『境内分配帳』は、村山集落内の道や谷、地名を記してあり、それらを境界として村内を12つ（十二支）にわけています。この「なかぼり」は、その一つになっています。村山には、いくつかの水源地があったことが絵図から窺い知れますが、「なかぼり」が、自然の谷か何らかの遺構なのかを確認するため、確認調査を行いました。

平成13年度調査は平坦面に対して調査区を設定しました。平成14年度調査は、村山浅間神社境内を、方位にラインを合わせた10ｍの方眼で区切り、これに沿ってトレンチを設定しています。

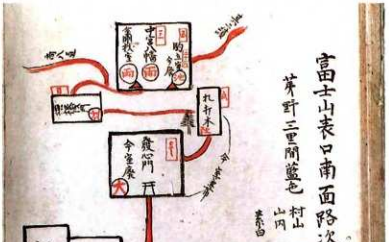
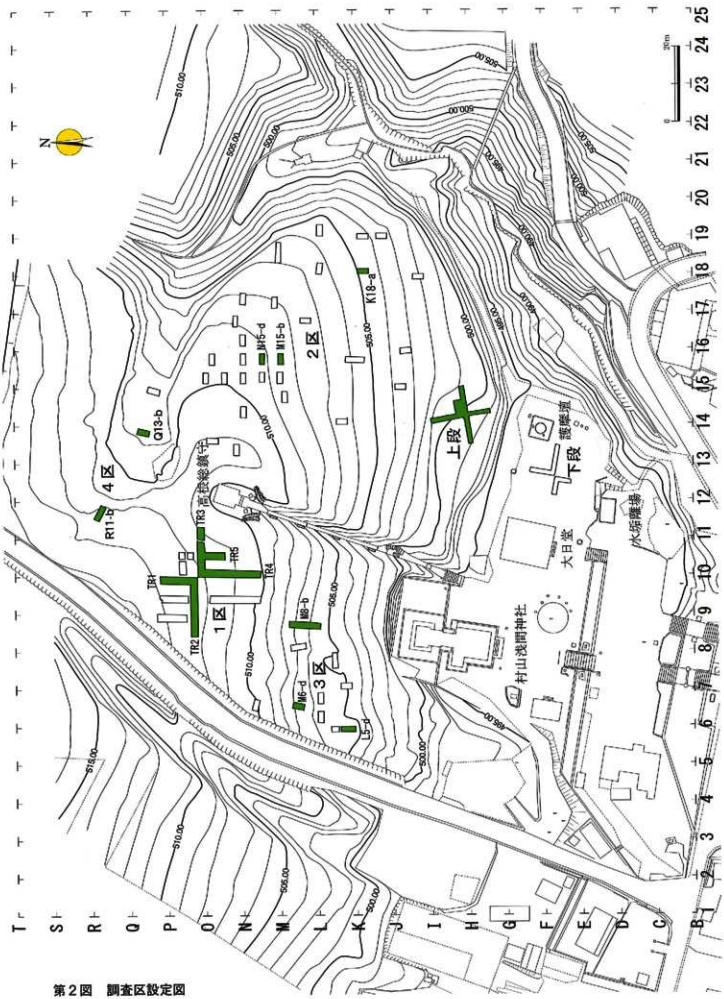


写真５　富士山表口南面路次社堂室有来之次第絵図（一部）
縦27.5cm×横19.2cm
嘉永４（1851）年
村山浅間神社蔵
『三坊公事一件書留』嘉永４年５月11日に、大鏡坊頼茂が寺社奉行脇坂淡路守に差し出した絵図面写。


1区
2区
3区
4区
上段
下段
TR1
TR2
TR3
TR4
TR5
R11-b
Q13-b
M5-d
M15-b
K18-a
M6-d
M6-b
村山浅間神社
大日堂
護摩堂
水源護摩
20m

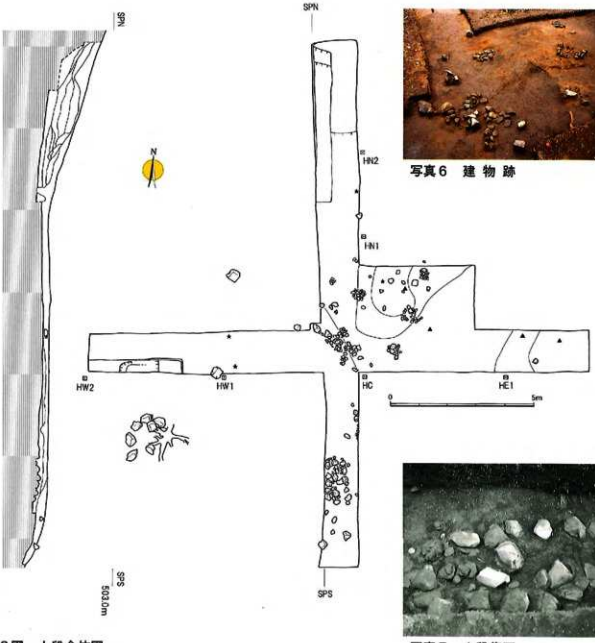
第２図　調査区設定図

3 平成13年度の調査

境内東の平坦地を調査対象地としました。上段と下段を、合計で90㎡試掘調査しました。第３図は上段の全体図です。下段には、毎年開山式（７月１日）に護摩(ごまた)焚(ごまたん)きが行われる護摩壇と、宝篋印塔(ほうきょういんとう)（宝暦２・1752年）他２塔の石造物があります（第２図）。

下段トレンチの西側では、幾層かの造成面とビニール管の下に、溝跡が確認できました。遺物はなく、時期は不明です。南に延長すると水垢離場へ向かうので、水源地からの水路かと推測していますが、詳しいことは更なる調査が必要です。

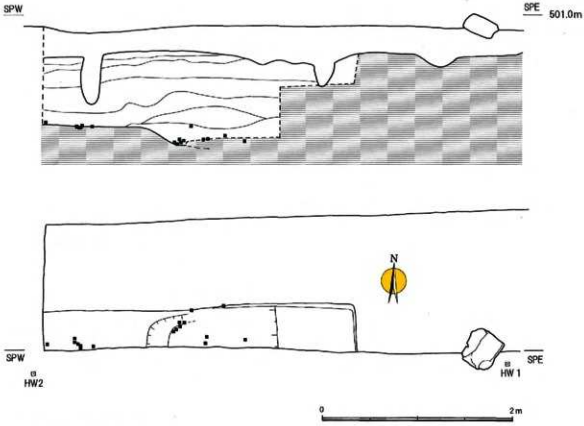
上段の平坦面は、約380㎡あります。礎石建物跡かと考えられる等間隔の石の並び、集石、北辺では土を削った面が確認されました。また、それらの下にあたる地層から写経石(しゃきょうせき)（石に経文を写したもの）が出土しています。出土遺物は江戸時代後半から明治時代までの陶磁器と、銭貨（元祐通宝・寛永通



第３図　上段全体図

写真６　建物跡

写真７　上段集石



第４図　写経石出土位置図

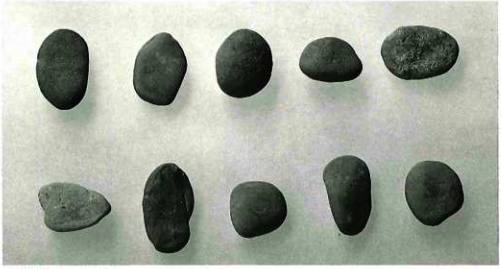


写真８　写 経 石

写真９　上段・下段調査風景

宝）数点です（第３図・４図）。

礎石建物跡は、長軸が富士山の方向です。上段・下段は、江戸時代の古絵図に描かれた大棟梁権現社推定地です。大棟梁とは、末代上人（12ｃ中頃）を指します。富士山で修行をし、村山に興法寺を開いたとされる人物です。大棟梁権現は村山の氏神ですが、今は高根総鎮守が氏神とされます。その経緯は明治初年の廃仏毀釈にあるようです。　（佐野）

4 平成14年度の調査

1 区

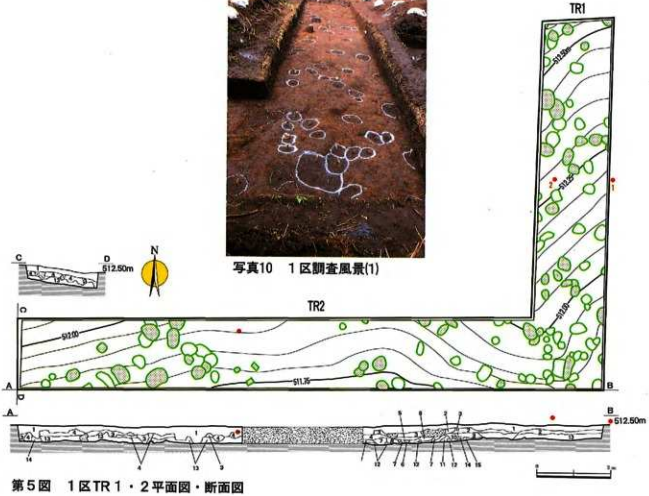
丘陵部平坦面の南北方向にそって10本のトレンチ（TR 1～TR10）を設定し調査を行ないました。

調査の結果、全てのトレンチにおいて土坑、ピット等の数多くの遺構が検出され、検出された数多くの遺構は、黒色土（土のしまり・粘性が共に強く層中に粒径1～3㎜のオレンジスコリア粒、砂、粒径1～2㎜の小石をやや含む）を覆土とするものと黒褐色土（土のしまり・粘性が共にやや強く層中に粒径1㎜前後のオレンジスコリア粒、粒径1～2㎜の小石、砂を含む）を覆土とするものの2種類に分けられました。遺構は丘陵部平坦面の中央付近に集中しており、黒色土を覆土とするものが検出遺構の大部分を占めていました。

TR 1・2（第5図）

TR 1では、ピット45基を検出しました。江戸時代初頭（17世紀初めごろか）のカワラケが出土しました。その西のTR 6では中世終末期（15世紀後半）の擂鉢片（すりばちへん）（瀬戸美濃、後Ⅳ新）が出土しています。TR 2では土坑5基、ピット62基を検出しました。遺構は、トレンチの西側と東側部分にそれぞれ集中します。

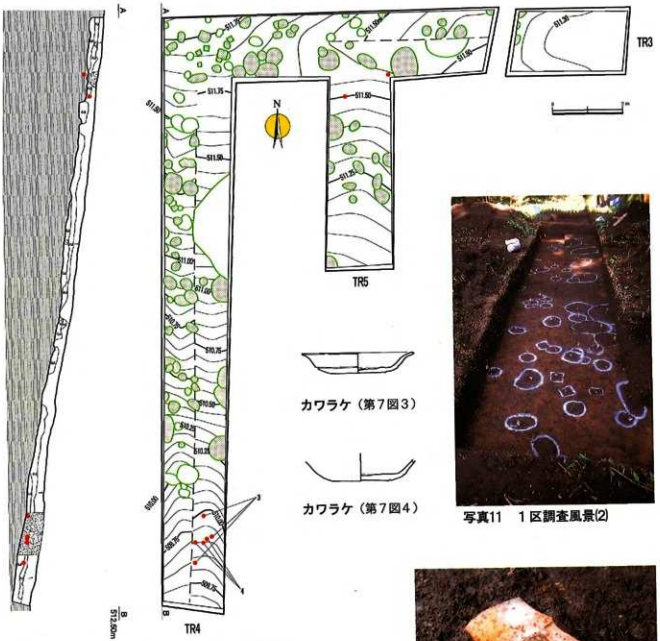
写真10　1区調査風景(1)



第5図　1区TR 1・2平面図・断面図

TR３・４・５（第６図）

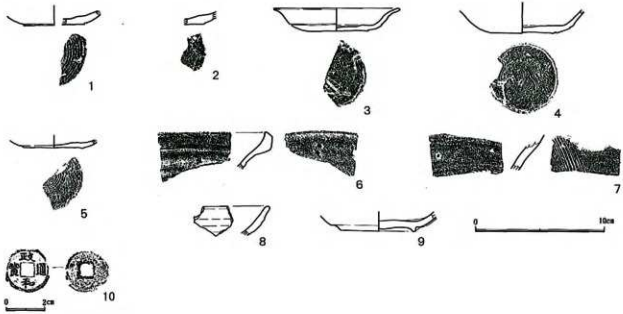
TR３では土坑６基、ピット42基を検出しました。遺構は、東側では少なくなります。ピットには平面形態が方形のものもあります。TR４では土坑11基、ピット38基を検出しました。斜面のきつくなる南側で少なくなります。流土中に江戸時代初頭（17世紀初めごろか）のカワラケが出土しました。



第６図　１区TR３・４・５平面図・断面図

写真11　１区調査風景(2)

写真12　カワラケ出土状況（第７図３）



第７図　１区出土遺物

２　区

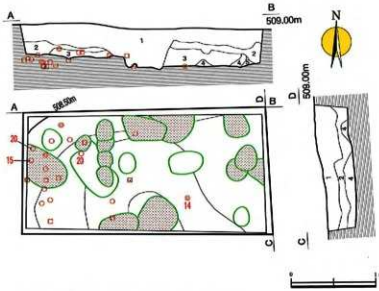
２区は高根総鎮守の東側に位置する丘陵部平坦面と緩斜面に幅1.5m、長さ３mのトレンチを27箇所設定し調査を行ないました（第２図）。

調査の結果、多くのトレンチにおいて土坑、ピット等の遺構が検出されましたが、遺物の出土は２区北側付近の平坦面に設定したトレンチのみでした。その中には富士宮市で初めて出土した平安時代中頃（９世紀後半～10世紀前半）の灰釉陶器の碗・皿、壺や、愛知県豊橋市の二川窯で９世紀後半～10世紀初めに焼かれた緑釉陶器素地の碗（稜碗）、９世紀後半～10世紀前半にかけて山梨県で焼かれた甲斐型坏、甲斐型甕などの貴重な遺物も含まれていました。

遺構は丘陵部平坦面に設定したトレンチで多く検出されましたが、丘陵の傾斜がきつくなるにしたがって遺構の検出も少なくなりました。

検出された遺構は黒色土（土のしまり・粘性が共に強く層中に粒径１～３㎜のオレンジスコリア粒、砂、粒径１～２㎜の小石をやや含む）を覆土とするものと黒褐色土（土のしまり・粘性が共にやや強く層中に粒径１㎜前後のオレンジスコリア粒、粒径１～２㎜の小石、砂を含む）を覆土とするものの２種類に分類できました。

写真13　２区調査風景



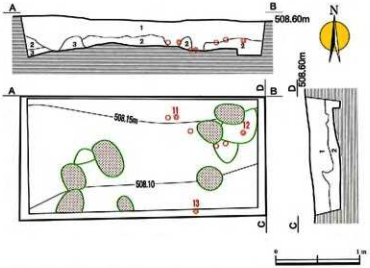
第８図　２区N15－ｄ平面図・断面図

N15－ｄ（第８図）

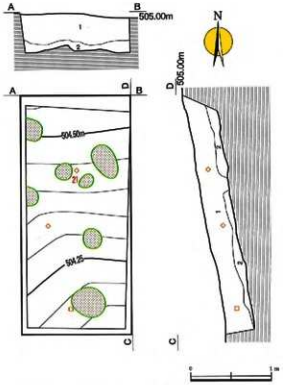
２区中央付近の平坦面に設定したトレンチです。その全域から土坑が２基、ピットが18基検出されました。遺物はトレンチ西側で灰釉陶器壺、甲斐型甕が出土しました。

M15－ｂ（第９図）

２区中央付近の平坦面に設定したトレンチです。その東側と西側でピットが10基検出されました。遺物はトレンチ東側で灰釉碗・皿、緑釉稜碗、甲斐型甕・坏が出土しました。



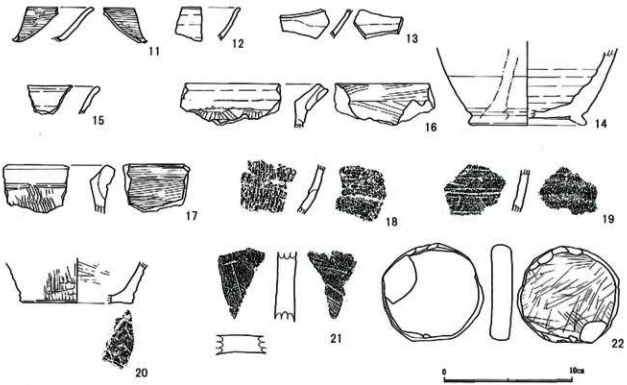
第９図　２区M15－ｂ平面図・断面図



第10図　２区K18－ａ平面図・断面図

K18－ａ（第10図）

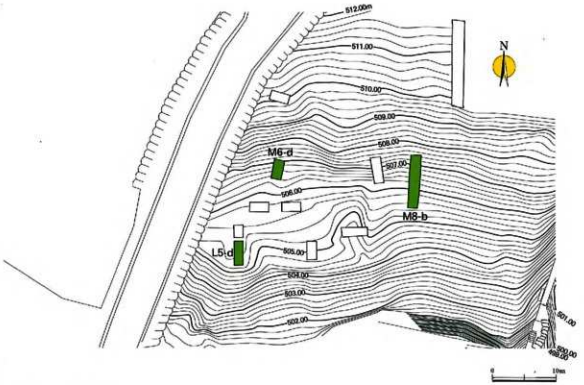
２区の東南部分の緩斜面に設定したトレンチです。その中央付近で、ピットが７基検出され、遺物は礫片が３点出土しました。



第11図　２区出土遺物

３　区

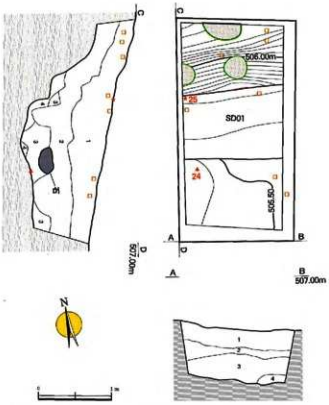
３区は高根総鎮守の南西側に位置する丘陵部平坦面にトレンチを９箇所設定し調査を行ないました（第12図）。調査の結果、緩斜面に盛土を行い平坦面を造成した跡や大型の柱穴と思われる遺構、造成面下の地山層に掘り込まれた土坑を検出しました。遺物は鎌倉時代のカワラケ、瓷（常滑）、江戸時代の銭貨（寛永通宝）、礫片等が出土しました。



第12図　３区地形測量図

Ｍ６－ｄ（第13図）

３区西側の斜面から平坦面に移行する所に設定したトレンチです。その北側の斜面部分にて３基のピットが、斜面から平坦面に移行する部分では東西に流下する溝状遺構が検出されました。また、ピット南側の平坦面では緩斜面に盛土を行ない平坦面を造成した跡や建物の礎石と思われる石も確認されました。遺物は甕が１点、銭貨（寛永通宝）が１点、礫片７点が出土しました。

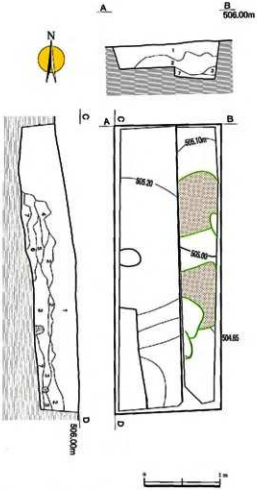


第13図　３区Ｍ６－ｄ平面図・断面図

写真14　３区調査風景

Ｌ５－ｄ

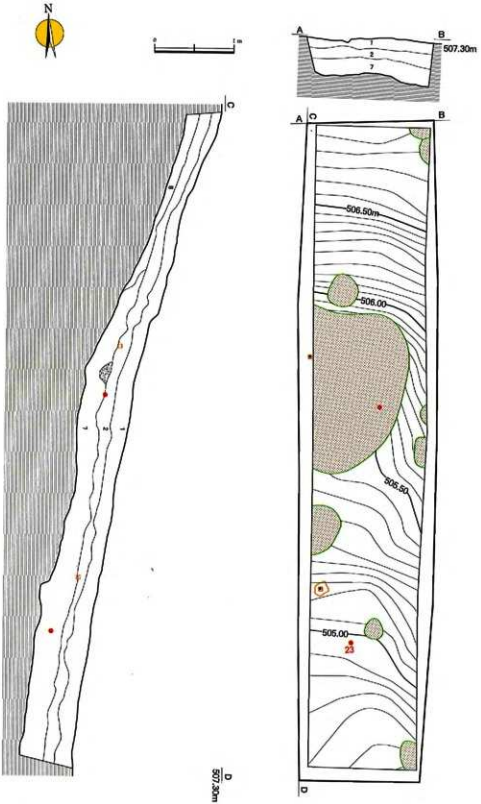
３区西側の平坦面に設定したトレンチです。造成面では中央西側にてピット１基が、造成面下の地山直上面では大型の土坑が２基、ピット３基が検出されました。



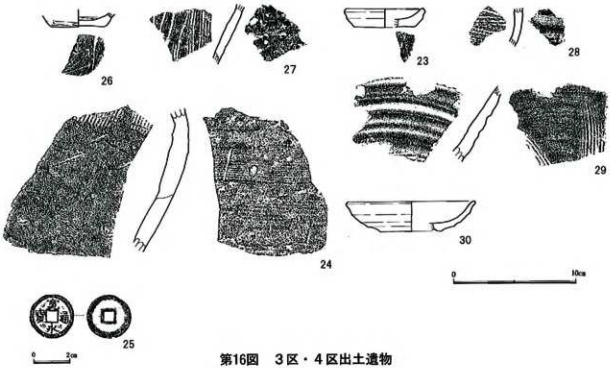
第14図　３区Ｌ５－ｄ平面図・断面図

Ｍ８－ｂ（第15図）

３区東側の緩斜面部分に設定したトレンチです。その中央付近で大型の土坑が１基、ピットが８基検出されました。遺物はカワラケ２点、礫片２点が出土しました。

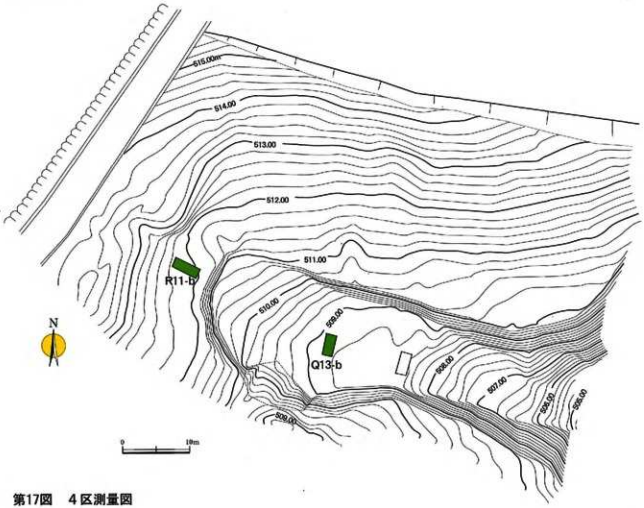


第15図　３区Ｍ８－ｂ平面図・断面図

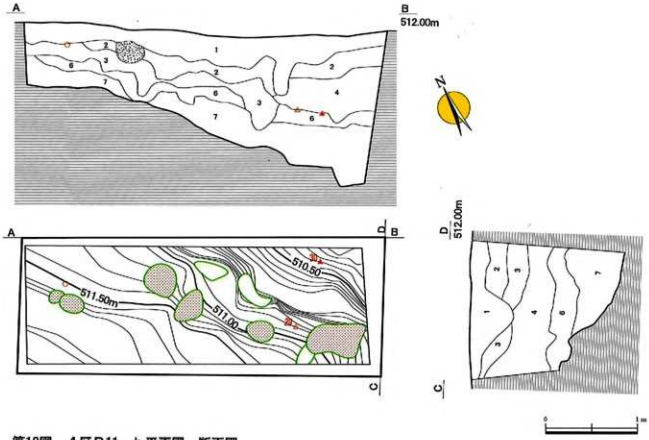


第16図　３区・４区出土遺物

４　区



第17図　４区測量図

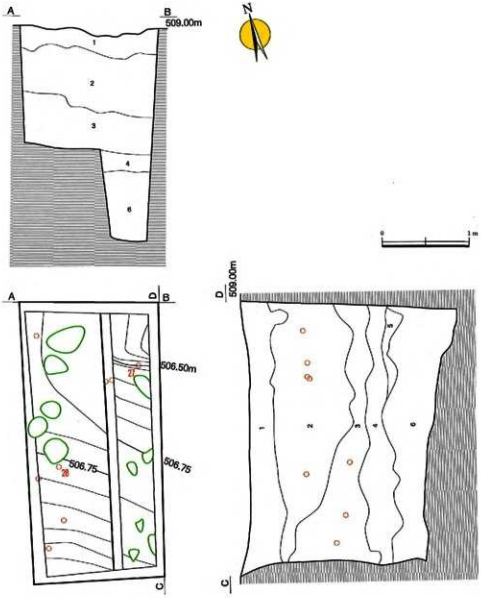


第18図　４区R11－ｂ平面図・断面図

R11－ｂ（第18図）

窪地の西側の平坦面に設定したトレンチで、地山は南から北と、西から東の二方向に向かって急角度で下る地形をなしていることから原地形では窪地の先端部がこの周辺から始まっていることが確認されました。また斜面上には斜面に平行にピットが６基検出されました。遺物は東側斜面で陶磁器片が２点出土しました。土の堆積は自然の流れ込みによる自然堆積です。

写真15　４区調査風景



第19図４区Ｑ13－ｂ平面図・断面図

Q13－ｂ（第19図）

窪地内に設定したトレンチでトレンチ内全域からピットが９基検出され、遺物は陶磁器片、土器片が５点、礫片２点が出土しました。（武田）

現在の登山道は、戦後、村山浅間神社境内の西側を、丘陵を削ってつくられました。旧登山道は、現在の登山道である道路の西側を平行する、狭く深い谷地形が考えられていますが、確定されてはいません。この旧登山道と４区の窪地を延長すると、丘陵の背の南端で直交するような形になります。（佐野）

お わ り に

平成13年度・14年度調査において、これまで合計５ヶ所の発掘調査が行われました。発見された遺構・遺物は、各調査区を、それぞれ特徴づけるものでした。

平成13年度調査区では、造成面と、礎石建物、集石など、何らかの施設跡が確認できました。特に礎石建物は、富士山を意識したつくりであるようです。遺物は、表土中から出土した仏花器（18世紀後半）や銭貨（中近世）等で、遺構の年代の決め手にはなりません。また、未調査範囲に遺構が広がる可能性があり、また写経石の分布状況など、さらなる調査が必要です。

平成14年度調査区のうち、１区は、擂鉢（瀬戸美濃：15世紀後半）や皿（瀬戸美濃：近世か）、カワラケ（17世紀初め頃か）、銭貨（元祐通宝・寛永通宝：中近世）などから、中世～近世にかけての年代を考えています。２区は、全調査区の中で最も古い可能性があります。甲斐型坏・甕（９世紀後半～10世紀前半）や富士宮市では初となる緑釉陶器素地、灰釉陶器（９世紀後半～10世紀初頭）の出土は、これまでの富士宮市内の遺跡とはやや様相が異なるものです。そのうち緑釉陶器素地の稜碗（第20図）は、生産地でも出土数が少ない種類の一つです。３区で確認された造成面は、平成13年度調査区上段によく似ています。北側の斜面を削り取り、南側に平坦面を作り出しています。遺物は中世（13世紀後半～14世紀）の甕（常滑）、近世の銭貨（寛永通宝）です。上段と同じ位の年代の可能性があります。また、この３区は、造成面の下に黒色土の土坑を２基確認しましたので、遺構は２時期に分かれるかもしれません。４区の遺物は、西側（R11－b）では１区と同時期の擂鉢（瀬戸美濃：15世紀後半か）、東側（Q13－b）では２区と同時期の甲斐型土器（９世紀後半～10世紀前半）が出土しました。遺物は、それぞれ自然堆積の流土中から出土しました。窪地は現在、植林されていますが、発掘調査からすると、人工的な土の移動は見られません。少なくとも、この窪地が近年の植林によるものとは考えにくくなりました。

このように、各地区ごと遺物の年代にまとまりがあります。境内は時代ごとに使用された場所が林の中を点々と移動する様子を、見て取ることができます。

以上の発掘の成果から、村山浅間神社遺跡は、平安時代の中頃（９世紀後半）まで遡ることが明らかになりました。村山に興法寺を開いたとされる末代上人（12世紀中頃）が活躍した時代より以前のことです。

富士山は、噴火を繰り返す山です。富士山を鎮める役目であった、富士山本宮浅間大社とは異なり、村山浅間神社は、富士登山を修行とする富士修験の中心的役割を果たしたと考えられています。

今回の発掘調査が、村山浅間神社の歴史を探る上で、一つの端緒となれば幸いです。

（佐野）

第20図　緑釉陶器素地（稜碗）復元図
（第11図11）

第1表　土器・陶器観察表

番号	器　種	出土位置	部位	口径	底径	器高	色調	産地	生産年代	備考
1	カワラケ	1区　TR1	底部	—	(4.8)	—	にぶい橙			残存底部1/4以下
2	カワラケ	1区　TR1	底部	—	—	—	にぶい橙			残存底部1/4以下
3	カワラケ	1区　TR4	底部	(9.8)	(5.0)	1.8	橙			残存底部1/4
4	カワラケ	1区　TR5	底部	—	(5.0)	—	橙			残存底部2/3
5	カワラケ	1区　TR6	底部	—	(5.3)	—	橙			残存底部1/4
6	擂鉢	1区　TR8	口縁部	—	—	—	黒褐	瀬戸・美濃	15世紀後半	
7	擂鉢	1区　TR6	胴部	—	—	—	黒褐	瀬戸・美濃	15世紀後半か	
8	皿	1区　TR10	口縁部	—	—	—	灰白	瀬戸・美濃		
9	皿	1区　TR6	口縁部	—	(6.0)	—	灰オリーブ	瀬戸・美濃		残存底部1/4
11	緑釉陶器稜碗	2区　M15－b	口縁部	—	—	—	灰白	二川窯　苗畑5号窯	9世紀後半～10世紀初頭	
12	灰釉陶器皿	2区　M15－b	口縁部	—	—	—	灰オリーブ	二川窯　苗畑5号窯	9世紀後半～10世紀初頭	
13	灰釉陶器皿	2区　M15－b	胴部	—	—	—	灰オリーブ,	二川窯　苗畑5号窯	9世紀後半～10世紀初頭	
14	灰釉陶器壺	2区　N15－d	底部	—	(9.6)	—	暗オリーブ/灰白	二川窯　苗畑5号窯	9世紀後半～10世紀初頭	残存底部1/6
15	甲斐型坏	2区　N15－d	口縁部	—	—	—	明赤褐		9世紀後半～10世紀前半	
16	甲斐型甕	2区　N15－d	口縁部	—	—	—	極暗赤褐		9世紀後半～10世紀前半	
17	甲斐型甕	2区　N16－a	口縁部	—	—	—	にぶい赤褐		9世紀後半～10世紀前半	
18	甲斐型甕	2区　N15－d	胴部	—	—	—	にぶい赤褐		9世紀後半～10世紀前半	
19	甲斐型甕	2区　M18－a	胴部	—	—	—	明赤褐		9世紀後半～10世紀前半	
20	甲斐型甕	2区　N15－d	底部	—	(7.0)	—	赤褐/暗赤灰		9世紀後半～10世紀前半	残存底部1/4以下
23	カワラケ	3区　M8－b	口縁部	6.6	4.6	1.5	橙			残存底部1/4以下
24	甕	3区　M6－a	胴部	—	—	—	暗赤褐	常滑	13世紀後半～14世紀	
26	駿東坏（?）	4区　Q14－d	底部	—	4.4	—	橙			残存底部1/4
27	甲斐型甕	4区　Q13－b	胴部	—	—	—	橙		9世紀後半～10世紀前半	
28	甲斐型甕	4区　Q13－b	胴部	—	—	—	明赤褐		9世紀後半～10世紀前半	
29	擂鉢	4区　R11－b	口縁部	—	—	—	黒褐	瀬戸・美濃	15世紀後半か	
30	鉄釉小皿	4区　R11－b	口縁部	—	—	—	暗赤褐	瀬戸・美濃		

第2表　銭貨観察表

番号	銭名	出土位置	直径	孔径	厚	備考
10	政和通寶	1区　TR8	2.3	0.7	0.1	北宋銭　初鋳　1111年
25	寛永通寶	3区　M6－d	2.4	0.6	0.1	

参考文献一覧

富士宮市教育委員会　1987『駿州富士郡二股村石経塚』

富士宮市教育委員会　1991『富士宮の文化財』

富士宮市立郷土資料館　1993『富士山村山口登山道跡調査報告書』

富士吉田市歴史民俗博物館　2000『富士山登山案内図』

富士吉田市教育委員会　2001『富士山吉田口登山道関連遺跡』

財団法人　瀬戸市埋蔵文化財センター　1997『瀬戸・美濃系大窯とその周辺』

藤澤良祐　「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通－研究の現状と課題－」
『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品－東アジア的視野から－資料集』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立10周年記念「瀬戸大窯とその時代」シンポジウム・講演会

豊橋市教育委員会　2000『二川古窯址群（Ⅰ）』

豊橋市教育委員会　2002『二川古窯址群（Ⅱ）』

山梨県考古学協会　1992『甲斐型土器－その編年と年代－』

富士宮市　1971『富士宮市史　上巻』

富士宮市　1986『富士宮市史　下巻』

若林淳之　2002「Ⅱ部　富士山と人々の暮らし　1．富士山…神の山・眺める山から登る山へ　2．富士曼荼羅の世界」
『富士山の自然と社会』国土交通省　中部地方整備局　富士砂防工事事務所

遠藤秀男　1967『富士山表口「村山」の歴史』

村山登山道保存観光資源化推進協議会　1993『富士山登山道　表口茂良山』

宮家　準　1990「富士村山修験の成立と展開」『山岳修験』第６号

指　　導

村山浅間神社遺調査研究会（代表　若林淳之）

協力者一覧（五十音順・敬称略）

池谷信之　池谷初恵　荻原美広　北垣俊明　木ノ内義昭　鈴木敏則　篠原　武
辻　真人　贄　元洋　布施光敏　堀内　真

指導・協力に記して感謝いたします。

裏表紙写真　富士山表口真面之図

縦42.5cm×横69.5cm

明治13(1880)年　発行

村山浅間神社　蔵

中央に村山浅間神社が描かれている。林に囲まれた境内に、「根本宮浅間社」「奥院大日」「竜頭池」の文字が見える。境内前の道の東西には、門が描かれている。そこは、東見付（ひがしみつけ）、西見付（にしみつけ）と呼ばれる所で、東海道からの参詣者はそこを通って村山に入り、富士山中へ向かった。

報告書抄録

ふりがな	むらやませんげんじんじゃ　いせき
書名	村山浅間神社　遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	富士宮市文化財調査報告書
シリーズ番号	第29集
編著者名	佐野恵里（富士宮市教育委員会）、武田英俊（株式会社東日）
編集機関	富士宮市教育委員会
所在地	〒418-8601　静岡県富士宮市弓沢町150番地　TEL 0544－22－1187（文化課）
発行年月日	西暦2002年12月25日

所収遺跡（しょしゅういせき）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
村山浅間神社遺跡（むらやませんげんじんじゃいせき）	富士宮市村山字水神（ふじのみやしむらやまあざすいじん）1151番　他	22207	市 184 県 —	35° 15′ 30″	138° 40′ 10″	（発掘調査） 010703～ 010817 020610～ 021004 （分布調査） 020325～ 020329 020610～ 020617	平成13年度 90㎡ ---------- 平成14年度 370㎡	総合学術調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
村山浅間神社　遺跡	散布地・社寺・その他	古代、中世、近世	ピット、土坑、造成面	緑釉陶器素地、灰釉陶器、土師器、陶磁器、カワラケ、銭貨	緑釉陶器素地、灰釉陶器の出土は富士宮市では初。

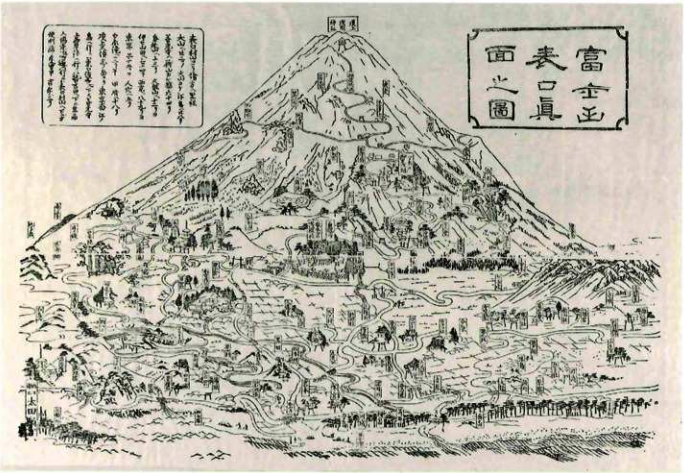
富士宮市文化財調査報告書　第29集

村山浅間神社遺跡

平成14年12月25日　発行

発行・編集　富士宮市教育委員会
〒418-8601　富士宮市弓沢町150番地
TEL 0544(22)1187

印刷　みどり美術印刷株式会社
〒410-0058　沼津市沼北町２丁目16番19号
TEL 055(921)1839


富士山表口眞面目圖